

郷土の歴史 359

八潮の地名考

二丁目 その壱



二丁目・二丁目 八潮市大字二丁目の地名。近世から明治二十二年の間は、二丁目と記し、町村制実施以降は二丁目と記される。二丁目は、古利根川右岸の沖積地に位置し、自然堤防上に中世集落が発展、地名の起立は糸里遺構地名に因むとされる(埼玉県史跡調査報告書・八潮の民俗資料三)。

帳に「川邊二丁目 常作入道 元亀二年四月十五日」と見える。中世期に開山した寺院では、西蓮寺が「開山頓進社宗上人、天文十五(一五四)年三月起立」(檀林小金東漸寺志)である。また二丁目には中世期の板碑が五三基が分布し、上二丁目には貞治七年(一三六八)、下二丁目には文明六年(一四七四)、若柳には延徳二年(一四九〇)等の板碑が造塔される。二丁目村 現八潮市大字二丁目・中

文芸欄

呉美代選

詩

くちなしの花 八潮五 西森八重子
生垣にくちなしの花が咲いた
重なり合う緑の中の白い一点
甘やかな香りが漂ってくる
その香りに誘われるように
一人、二人と人が立ち止まる
くちなしの清楚な色と芳香が
人びとを引き寄せるのだ
そして
日頃は無口な人の重い口を開かせ
こころを解きほぐすのだ
いまも、生垣の傍らで
人びとが和やかに話し合っている

短歌

鶴ヶ曾根 安藤知晃
ケイタイも持たずパソコンはお遠く
街中を過ぎて中川の土手に出づ

俳句

車内の空気が清し 猪瀬利助
中央一
灰色の雲渦をなし流れいく
予報当たるか春雷の兆し
八潮六 佐藤秀子
朝ごとに窓辺を彩る冬の花
夫と眺むる安らぎのとき
大瀬 成川真紀
アネモネのパーズンロード歩みつ
祝福を受く新しき道
八潮三 豊田好一
同期會最後にならむと通知くる
ままならぬ身に友のいたわり
大曾根 小倉末子
傍らに庭のバラ活け眺むれば
傷つきしわれ心やわらぐ
木曾根 高谷多門
目ざめれば写真の父母もおぼろなり
あちらもいまは梅雨空ならむ
(評)短歌の調べの美しさを身につけて下さい。少し手を入れました。

皆さんの投稿をお待ちしています。市民の方ならどなたでも結構です。ぜひお寄せください。
【応募先】〒340-8588八潮市中央一丁目、八潮市役所広聴広報課広聴広報係

松伏町 越谷市 草加市 三郷市 吉川市
行ってみいたいな となりまち
○毎月第4日曜日は『平成の楽市楽座』へ行こう！
○サンシティ名画劇場「ザ・ピーチ」
○ソウカ バイン コンサート『交響曲第九番』

郷土の歴史 360

八潮の地名考

二丁目の地名 その式



大字二丁目 明治二十二年(一八八九)から南埼玉郡潮止村の大字名、潮止村の大字名のおり二丁目を二丁目と書き表す。昭和三十一年(一九五六)から南埼玉郡八潮村・八潮町の大字名、昭和四十七年(一九七二)から八潮市の大字名、なお二丁目の西部は、区画整理事業により中央・八潮と地名変更し、現在に至る。

小名・字名 近世後期の地誌御札役人調査による小名は、下二丁目のみで、「二丁目 飛地にて、木曾根村の先にあり」(『新編武蔵風土記稿』)と記される。明治六年(一八七三)の地租改正のおりの同九年『村誌』の字地は、上耕地・下耕地・若柳耕地・下堤外・川中島・上堤外の六字、昭和四十七年(一九七二)の「八潮町公図」は上・若柳・下・下堤外・川中島・上堤外

図上の字地で、集落の北部に位置する地名に因む。(上耕地)上耕地は、明治六年の地租改正のおりの耕地名で、『村誌』には「本村ノ西北ニアリ、東西六町南北四町」と記される。(上二丁目)上二丁目は、俗称地名で、上より上二丁目の呼称が一般的である。なお中井堀西側は、昭和五十七年(一九八二)に町名地番変更し中央となる。

は、徳川家康が上杉景勝討伐に小山へ出陣したおり、石田三成率兵の知らせをうけ、江戸帰城のおり、新田にて食事を取られた。その時に使用した柳箸を、「天下を取れば芽を出せ」といつて刺し、関ヶ原の合戦に臨まれた。村人らは毎日、柳箸を見に来る。柳の箸から芽を吹いたのを観て、権現様が天下を取られたことを知った。権現様のお手植えの柳があることから、新田のことを若柳と呼ぶようになったと伝える(『八潮のむかしばなし』)。

字下堤外 明治初年から現在に至る字地名で、下二丁目の中川堤東側の河川敷に因む地名。「下耕地ノ東二連リ、東西一町南北四町」の区域。字川中島 明治初年から現在に至る字地名。地名は、大正末年までの古利根川(中川)が、古利根川と枝川の二流に流れていたことに因む。大正末年から昭和初期にかけての潮止第一耕地整理のおり枝川は埋められ、陸続きとなる。下堤外ノ東二連ナリ、東西二町南北三町」の区域。字上堤外 明治初年から現在に至る字地名。上二丁目の中川堤東側の河川敷に因む地名。「上耕地ノ東二連リ、東西二町南北三町」の区域。

文芸欄

呉美代選

皆さんの投稿をお待ちしています。市民の方ならどなたでも結構です。ぜひお寄せください。

【応募先】〒340-8588八潮市中央一丁目一、八潮市役所広聴広報課広報係

詩

湯気の立つ豚汁の中から
ほくほくの里芋を口に入れると
里芋の好きな母の顔がよぎった
子供のころ母は工場現場から帰ると
長靴をはいたまま里芋を釜で茹でた
ざるいつばいに茹で上がった里芋を
一つとってフーフー息を吹きかけ
指先で芋の尻をつまむと、つるりと
皮がむけ、まっ白な小芋が現われる
小芋は口から胃袋へ滑り込んだ
あれから半世紀
母は古い、一人で暮しているが
衣被ぎをいまでも食べているだろうか
たった一人で
(評)描写が巧みでいきいきしておられる。

短歌

入日背に墨色の雲湧き立ちて
川面さわがす風吹きはじむ
木曾根 高谷 多門
ふるさとお別れ咲きの伝えあり
友逝きし今朝キキヨウ開きぬ
鶴ヶ曾根 齊藤 道子
道の辺に倒れしままの自転車
覆いつくすこと昼顔のつる
大曾根 小倉 末子
商の暮しを終えてなお姑は
することありと端切れ溜め死す
柳之宮 平沼 良子
盆仕度花捧げつ紫の
衣の尼僧歩みゆくなり
八潮五 林 悦子
七夕の飾りの揺れし平塚の
年に一度の逢瀬待たるる

俳句

八潮七 深井 健
迎え盆バイク寺まで走らせて
帰る背中に父母背負う
南川崎 松谷 永子
盆のいり昼は木立でせみしぐれ
虫の音もして人恋うる夜
中央一 猪瀬 利助
梅雨晴れ間筑波の嶺もふと浮かぶ
沢蟹捕りし遠き日のわれ
南川崎 小野塚喜代子
この夕べ自然の里の仲間達
祝ひてくれしわが誕生日
南後谷 小田三重子
花のなき庭に咲き初むゼラニウム
乙女の髪のかんざしのこと
二丁目 田中 祐子
わが腕に小さきからだ委ねつつ
祭りの朝姑立ちらぬ

二丁目 平井 石龍
母の日や一すじに子を思う五十年
木屋の香り漂う外廊
中央一 山角 微陽
さざぎに風のとまりて秋さくら
まがり家が村に一軒青リンゴ
八潮五 杉村 知香
恍惚の我を呑み込む大花火
緑町五 加藤 龍子
手びしゃくで乾きを癒す岩清水
八潮五 西森八重子
牛蛙鳴いて住家を確かめ
八潮六 藤崎 政子
蟬時雨一人占めして大昼寝
緑町五 藤波 ふみ
人気ない昼の公園蝉しぐれ
柳之宮 尼ヶ崎友江
朝顔を教へ一日始まりぬ
鶴ヶ曾根 平本 愛子
ひぐらしの鳴く音しみる古寺かな

大曾根 小倉 花子
髪切つてえり足涼し夏帽子
大曾根 横山 英道
華も伸び赤トンボ舞い水豊か
中央三 宇津木勝子
夏料理幼き日々の母の味
八潮五 小林 光
ほろ酔いてしゆる着て歩く土手の道
八潮七 小倉 孝義
散歩道鳴きつくれたる油蝉
緑町五 村田 恭子
気のおけぬ友との旅や蟬時雨
大曾根 小倉 義孝
病床の窓より眺むいし雲
木曾根 古根 昌明
青簾嬰兒乳房を含みおり
上馬場 会田いね子
迷いきて夫の背で鳴くあぶら蟬
鶴ヶ曾根 齊藤 初子
紅一寸さして亡夫の迎え盆
朗朗と眉目秀麗盆の僧

Advertisement for various events in Matsuyama, including festivals, concerts, and exhibitions in cities like Katsushika, Matsuyama, and Yatsushiro.